

平成23年2月4日発行の日刊産業新聞に記事が紹介されました

(平成23年2月7日 産業新聞社より転載許可承諾済)

# 平林金属 プラスチック分離回収技術 北海道で本格採用

【岡山】平林金属（本社＝岡山市、平林久一社長は、岡山大学などと共同開発したプラスチックの比重分離装置がこのほど、北海道で計画されるリサイクル事業に採用されることになった。産学協同で取り組んできた分離回収技術の研究結果が外部で活用されることになる。

採用された比重分離装置は、平林金属と岡山大学、永田エンジニアリング（北九州市）が共同開発したもの。砂や粉体に空気を送り込んで流動層をつくりだし、比重による浮き沈みで物質を分別する仕組み。比重の重い塩素系含むプラスチックと比重の軽い非塩素系のプラスチックに選別

する。分離比重を調整することもできる。平林金属では共同研究で開発したプラスチックの選別装置を06年に自社の港工場（岡山市）に導入している。また、08年には技術を応用して、同様にミックスメタルの分離回収を行う機械を開発、西大寺工場（同市）で稼働させた。

今回、比重分離装置が北海道登別市で計画されている、新たなリサイクル事業で導入されることになったもの。平林金属は、産学協同で分離回収の技術研究を進めているが、外部で装置が本格的に採用されることになった。

登別市では、今春から、最終処分場を掘り返し、埋められている産業廃棄物から金属とプラスチックを回収するリサイクル事業が始まる。事業主体となる道内の業者がリサイクル工場に比重分離装置を導入する。

を取り出し、プラスチックをより分ける。比重分離装置はプラスチックをさらに選別する工程で使用される。非塩素系の比重が軽いプラスチックはセメント用燃料に、塩素系の重いプラスチックは再度埋め戻されるという。同社では「これまでの研究が実を結んだ。選別技術を評価していただきありがたい」とし、今後は稼働状況などを見守っていくという。